

自治体 あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号
URL http://www.jaichi.jp TEL(052)916-2251
Eメール info@jaichi.jp FAX(052)916-2308

2012. 11. 10
No.1059

発行責任者 柳 進 定価 10円
組合員の購読料は組合費の中に含まれています

第29回
トヨタシンポジウム

とき 11月25日(日)13:30
ところ 刈谷市総合文化センター



寒さの厳しい中、全県から栄広場に400人の仲間が結集し、熱く団結を固めました。

11. 2全県労働者 決起集会

全県の方あわせ 賃金改善でくらしを守ろう

11月2日、すべての労働者の雇用確保と賃金改善をめざして「全県労働者決起集会」が名古屋市中区の栄広場で行われました。集会は愛労連、愛知公務共闘、自治労連の3団体主催で行われ、冷え込みが厳しくなる中でしたが、全県から400人を超える労働者が参加しました。

われ、冷え込みが厳しくなる中でしたが、全県から400人を超える労働者が参加しました。主催者を代表して田中・愛労連副議長が「我々労働者の声が届く政治を実現し、働くルールを確立しよう」とあいさつ。行動提起では、林・自治労連愛知県本部書記長が「憲法違反の国家公務員の賃下げは、地方公務員や民間労働者にも影響します。地域から悪政の推進を許さない国民的共同をつくりあげよう」と訴えました。その後、栄広場から矢場町交差点までの人でにぎわう繁華街を消費増税中止や公務公共サービスの拡充などを訴えてデモ行進しました。



要請書を提出する伊藤委員長(右)

10月25日、自治労連愛知県本部は12秋季年末賃金改善要請書をもとに、愛知県市町村課との交渉を行いました。はじめに伊藤委員長

「都市部と山間部では燃料代は違う」 愛知県市町村課交渉

「自治体労働者をめぐる賃金・労働条件について、この交渉を率直な意見交換の場としたい」とあいさつしました。

交渉は、まず賃金・労働条件は労使交渉・労使合意を基本とすることを確認。市町村課は「当局に使用者責任はあり、県として労使自治への介入は考えていない」と明確に回答。しかし、その一方で市町村課は、自治体が議会の承認を得て実施する制度について

「本当に住民の理解を得られているのか」と地方自治を否定する趣旨の発言。県本部は「何を根拠に発言しているのか。議会で合意された内容を、県は何をもって住民の理解を得ていないと判断するのか」と追及。市町村課は「県は住民の理解を得たかどうかを判断する立場にはない」と回答を改め、また、「国の基準どおり市町村に対して下げる」と回答せざるを得ない

「自治体労働者の賃金が下げられ、民間労働者の賃金も下げられと負のスパイラルになっている。豊橋でも住居手当や扶養手当が削減されようとしている。人員も十分に確保されていない欠員職場の問題もあり、賃金と人員問題両面で要求していく」(豊橋市職労・山田章さん)



デモ行進する学事労の仲間

増税・社会保障の改善許さない
参加者の声

「毎年賃金が下げられて、一人暮らしなので生活がすごく大変。この状況を変えるためにも仲間とともにがんばります」「増税と社会保障改善を行う野田政権に対して怒りでいっぱい。私たち国民の犠牲の上に政治を行おうとする政府の姿勢は許せません」(学事労組合員2名)



大きな声で訴える中根書記長(左)

「国民・労働者の意見に耳が傾けられず、財界・大企業の利益優先で政治が行われています。労働法制や税制にしても今の政治が諸悪の根源。労働者の声が反映される政治を実現するためにも、私たちが選挙で正しい選択をすることが大切です」(蒲郡市職・中根書記長)

賃下げ許さず
欠員補充めざす
参加者の声



組合旗を持つ山田章さん(中央)

「本場に住民の理解を得られていないのか」と地方自治を否定する趣旨の発言。県本部は「何を根拠に発言しているのか。議会で合意された内容を、県は何をもって住民の理解を得ていないと判断するのか」と追及。市町村課は「県は住民の理解を得たかどうかを判断する立場にはない」と回答を改め、また、「国の基準どおり市町村に対して下げる」と回答せざるを得ない」と回答せざるを得ない

「自治体労働者の賃金が下げられ、民間労働者の賃金も下げられと負のスパイラルになっている。豊橋でも住居手当や扶養手当が削減されようとしている。人員も十分に確保されていない欠員職場の問題もあり、賃金と人員問題両面で要求していく」(豊橋市職労・山田章さん)

「自治体労働者をめぐる賃金・労働条件について、この交渉を率直な意見交換の場としたい」とあいさつしました。

「自治体労働者の賃金が下げられ、民間労働者の賃金も下げられと負のスパイラルになっている。豊橋でも住居手当や扶養手当が削減されようとしている。人員も十分に確保されていない欠員職場の問題もあり、賃金と人員問題両面で要求していく」(豊橋市職労・山田章さん)

子どもの笑顔までもるのが国・自治体の役割

すべての子どもによりよい保育を！11・3大集会

「参加して元気が湧いた。明日から目の前の子どもをより大切にしたい」(20代男性保育士)。「一人の力は小さいけど、みんなが集まれば必ず私たちの声が届くと肌で感じた」(20代女性保育士)。愛知から参加した仲間も集会の感動を元気に語りました。

11月3日、東京の日比谷野外音楽堂で「すべての子どもによりよい保育を！」

11・3大集会が開催され、公的保育の解体を許さず、待機児童の解消など要求実現に向けて、全国から3500人の保育士と保護者が集まりました。

野村・自治労連中央執行委員長は「子どもたちの笑顔をまもるのが、国・自治体の役割。みんなの力を大きく集め、子どもたちの明るい未来をつくらせていきたいと思います」と開会あいさつ。

リレートークでは、福島県保育連絡会から「除線を行って欲しいという私たちの思いは国と東電に届いていないのでどうか。子どものために原発も新システムもいりません」との訴えや、待機児童を解消するために認可保育園を増設して欲しい



歌と踊りを披露する愛知の仲間

「平和な空港へ」思い訴え

第16回小牧平和県民集会



小牧基地に向け出発する平和パレード

10月28日、第16回小牧平和県民集会が小牧市市之和田中央公園で開催されました。集まった300人の市民は「小牧空港の自衛隊基地機能強化反対」「オスプレイの配備反対」など平和への思いを訴えました。

望月尾中労連議長は開会あいさつで「ブルーインパ

ルス編隊飛行や離着陸の様子公開され、自衛隊の訓練の様子を区長や議員が見学するなど懐柔対策が進められている」と訴えました。

集会後、小牧基地に向け平和パレードにとりくみました。大雨の中、元気いっぱいリズムカルに「わたしたちはのぞみます！平和な空港のぞみます！」と思いをこめし沿道の市民にアピールしました。

医療費の無料化や補助求める

秋の自治体キャラバン



野外音楽堂を埋め尽くす全国から集まった保育士と保護者



犬山市と懇談するキャラバン隊

介護・医療・福祉など社会保障の拡充を求める愛知自治体キャラバンが、10月23日〜26日にかけて行われ、秋の自治体キャラバン

ました。自治労連や愛知社保協などからつくる実行委員会が毎年とりくんでおり、県内すべての市町村に対し要請を行っています。

24日に訪問した江南市では、参加者から子ども医療費の無料化について、「多くの自治体が中学校卒業まで実施している。江南市もそうして欲しい」と発言。これに対して市は「他の自治体の多くが実施しているという認識はある。市として

も視野に入れていたが、財政的に厳しく今はできない」と回答しました。

扶桑町では、今年4月から訪問介護の生活援助の基準時間が削減されたことについて、「60分の介護が45分になり洗濯や掃除時間など十分に取れなくなっている。少なくとも4月以前の時間まで戻して欲しい」と厳しい実態を訴え、改善を求めました。

犬山市では、高齢者の予防接種の補助について、「インフルエンザの65歳以上対象に比べ肺炎球菌は75歳から。しかも一生に一度しか補助も出ない。2回目の補助を行っている自治体もある」と指摘。これに対して市は、「近隣市町の状況について調査してきたい」と回答しました。

「言いたい劇場」小菫りや子



セット共済 安く安心
自治労連 掛金 1790円/月 → 病气入院 5000円/1日

くらしと福祉守る自治体つろう

住民が主人公の地方自治をすすめる交流集会



熱心に講演を聞く参加者

10月31日、「住民が主人公の地方自治をすすめる交流集会」が金山・労働会館で開催され、愛労連や自治労連などから34名が参加しました。開会あいさつに立った伊藤・自治労連愛知県本部執行委員長は「悪政をストップさせ、地域住民との共同の運動で住民が主人公の地方自治をつくりあげよう」と呼びかけました。

その後、中嶋信・徳島大学名誉教授が「暮らしと福祉を守る自治体をつくろう」と訴えました。特別報告では、吉良・愛労連事務局長が「公契約条例・中小企業振興条例などで地域経済の活性化を」と訴えました。集会は、空・愛知国会議長の「住民と共同の運動を推進していこう」のあいさつで閉会しました。

TOPICS

福祉予算削減を県民集会「いさげよう」守れ!



「社会保障充実」のちとくらし脅かす原発NO!」などを訴え1000人が集会・デモ行進。

2012愛知県民の集い「憲法9条を守ろう」



大江健三郎さんが「いま、なぜ希望を語るのか」と題して講演。1900人が参加。

パート・臨時などの「元気の出る集会」



年金問題やメンタルヘルスについての学習会と経験交流も行いました。43名が参加。

単組定期大会 役員紹介

- 蒲郡社福労 (10月25日)
 - 執行委員長 岡田 隆二
 - 副委員長 倉橋 早苗
 - 書記 長 中鉢美津子
 - 書記 長 鈴木 康仁
 - 書記 次長 鈴木 康之
- 幸田町職労 (10月26日)
 - 執行委員長 太田 義裕
 - 副委員長 音部 八千代
 - 書記 長 藪田 芳秀
 - 書記 次長 神田 剛志